



---

令和2年度

地域との協働による高等学校改革推進事業・グローバル型

# 研究開発実施報告書

## 2年次

---

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校



## ① 研究開発の概要

② 巻頭言・事業風景

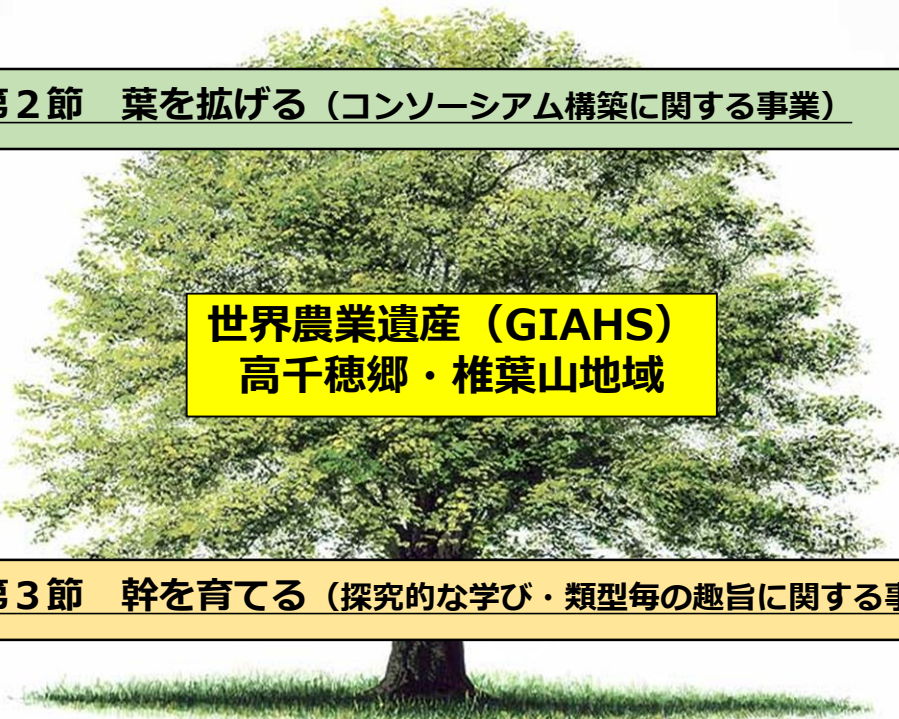
③ 関係資料

世界農業遺産・認定地域（GIAHS地域）においてコンソーシアムを構築し、スーパーグローバルハイスクール事業で培った地域課題研究をコンソーシアム構成員と協働しながら実践・普及することによって、学びの真正性と普遍性を兼ね備えた「共学共創コミュニティ（GIAHS Co-Learning Community）」を形成し、Society 5.0 をGIAHS地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民（Global citizen）」を育成する。

## ② 研究開発実施報告

### 第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

### 第2節 葉を広げる（コンソーシアム構築に関する事業）



世界農業遺産（GIAHS）  
高千穂郷・椎葉山地域

### 第3節 幹を育てる（探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業）

### 第4節 土を耕す（教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業）

### 第5節 森を見る（評価に関する事業）

- (1) 関連づける力 Associating (2) 問う力 Questioning (3) 見る力 Observing  
(4) 試みる力 Experimenting (5) 繋がる力 Networking

[巻頭言] 2年次 研究開発実施報告書の発行にあたって

[事業風景]

### ① 令和2年度 研究開発の概要

1-1	研究開発概要	1
1-2	ビジュアル資料（構想概要・ロジックモデル）	3
1-3	目標設定シート	5

### ② 令和2年度 研究開発実施報告

#### 第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

2-1-1	育てたい資質・能力	7
2-1-2	教科での取組みとの関連性	8
2-1-3	コロナ時代の新しい探究様式	10

#### 第2節 葉を広げる（コンソーシアム構築に関する事業）

2-2-1	コンソーシアム体制	11
2-2-2	地域との協働による取組み	12
	①地域協働オンラインセミナー	13
	②G I A H S シンポジウム	14
	③五ヶ瀬町政策提案コンテスト	15
	④地球総合環境研究所オープンハウス	16

#### 第3節 幹を育てる（探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業）

2-3-1	総合的な探究の時間（グローバルフォレストピア探究）の意義	17
	①学習プログラム年間計画	18
	②各コースの実施概要（1年～6年）	19
	③グローバルフォレストピア調査研究発表会	25
2-3-2	外国語教育の先進的な取組み	26
	①E n g l i s h D a y	27
	②G I A H S オンライン研修	28
	③グローバル探究研修	29
	④外国人留学生の受入れ体制の整備	30

#### 第4節 土を耕す（教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業）

2-4-1	職員研修	31
2-4-2	オンライン教育の推進に向けた取組み	32
2-4-3	社会人向け教育プログラムの開発	34

#### 第5節 森を見る（評価に関する事業）

2-5-1	形成的アセスメントに関する取組み	35
2-5-2	高校魅力化評価システムの分析結果	38
2-5-3	事業成果の発信に関する取組み	40

### ③ 関係資料

3-1	各種大会参加・表彰・作品	41
3-2	先進校視察・県外研修等	50
3-3	来校者一覧	51
3-4	運営指導委員会	52
3-5	新聞記事等	53
3-6	教育課程表	54
3-7	担当者一覧	55

## 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型） 2年次研究開発実施報告書の発行にあたって

本校は、宮崎県の「フォレストピア宮崎構想」を受け、全人教育の実践を教育理念に据え、平成6年4月に宮崎県立五ヶ瀬中学校・五ヶ瀬高等学校（全国初の公立の中高一貫校）として開校しました。その後、平成11年の学校教育法の改正に伴い、現在の宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校となり、今年で創立27年目を迎えます。

本校の建つ五ヶ瀬町は、急峻な岩峰や数々の溪谷など独特の景観美と原生的な自然を併せ持ち、本校の『創設のことば』である『天に学び 地に学び 人に学ぶ』に基づく教育活動の具現化において、恵まれた地域資源・人的資源を有しています。また、この地域は、「山間地農林業複合システム」として、平成27年に国際連合食糧農業機関(FAO)によって世界農業遺産(GIAHS)にも認定されています。

本校は平成26年度から5年間のスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を経て、令和元年度より本事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に認定され、中山間地域に顕在化している社会課題をグローバルな課題と関連づけ、地域課題研究を軸とした教育課程、特に「探究的な学び」の研究開発を行ってきました。また、本校を核とした「共学共創コミュニティ (GIAHS Co-Learning Community)」として、近隣の5町村、教育機関、地域NPOと教育コンソーシアムをつくり、創設以来培ってきた「探究的な学び」を5町村・「GIAHS地域」に普及推進することによって、Society5.0時代を地域から分厚く支える人材、すなわち、私たちはこれを「野性味あふれる地球市民 (Global citizen)」と名づけ、本事業においてその人材育成を図ろうと考えています。

今年度は本事業の2年目に当たり、昨年度の各種取組を発展・深化させるべく準備を進めてまいりましたが、コロナ禍の影響により、特に海外研修やフィールドワークにおいては、現地に赴くことが困難となり、規模縮小と見直しを迫られる結果となりました。しかし、その一方では、国の教育事業『GIGA スクール構想』の環境整備が加速化したことを機に、オンラインシステムを各種活動で積極的に運用するなど、アフターコロナを見据えたオンライン活動の常態化が図られ、当初の期待していた教育効果に比肩する成果を残すこともできました。

『五ヶ瀬だからできる、五ヶ瀬にしかできない』、この視点を保持し、従前の学習体系に縛られない斬新な学びの創出を目指す学校であり続けることを強く願っています。

結びに、本校の研究開発に対しまして、終始温かいご指導ご支援等をいただきました自治体、大学等研究機関、運営指導委員の先生方など、多くの皆様に心より深く感謝し、厚くお礼申し上げますとともに、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年3月

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校  
校長 鬼 東 雅 史

郷土探究1(1年生) 事業風景



田植え



用水路見学



茶摘み・釜炒り体験



神話



荒踊り



竹細工



石橋見学



餅つき

郷土探究2(2年生) 事業風景



畝作り



苗植え体験



農業体験



収穫体験



命のつながり ニワトリの解体



調理体験



土呂久地区現地研修



探究活動

## 実践探究3(3年生) 事業風景



マイプロ概論 (4・5年生とのオンラインセッション)



GIAHSについて学ぶ (GIAHS 協議会 田崎氏)



マイプロジェクト 対話によるテーマ設定



マイプロジェクト 100Will リスト・MyWill 年表



マイプロジェクト実践



Connectwith マイプロ (生徒企画による中間発表会)



オンライン哲学対話 (東京大学・梶谷教授)



マイプロジェクト 英語ディスカッション

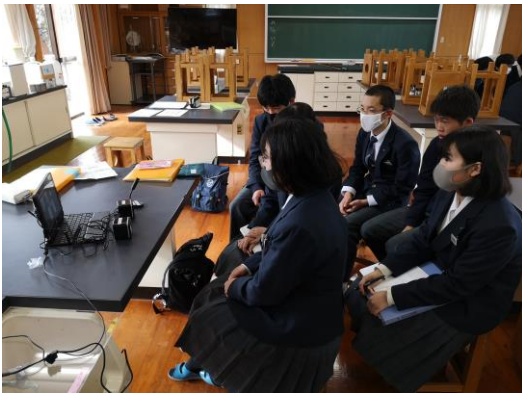
## 実践探究4(4年生) 事業風景



課題研究概論 (校内)



哲学対話 (オンライン)



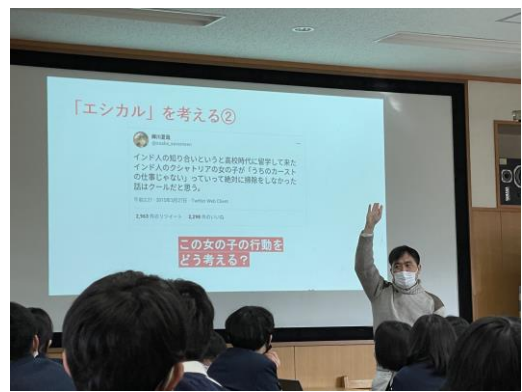
グローバル探究研修 (オンライン)



グローバル探究研修 (オンライン)



課題研究概論 (オンライン)



They oh Knowledge



各種コンクール参加 (政策提案コンテスト)



ポスターセッション



# 普遍探究5(5年生) 事業風景



オリエンテーション



SDGs 概論



五ヶ瀬 TSUNAGU(オープンイノベーションカフェ)



五ヶ瀬 TSUNAGU(ポスターセッション)



インタビューの方法を学ぶ



普遍探究活動



調査研究発表会

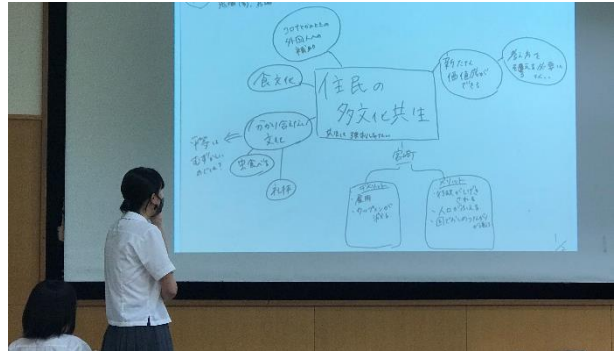


調査研究発表会

## 普遍探究6(6年生) 事業風景



ディスカッションの手法を学ぼう①



ディスカッションの手法を学ぼう②



グラフィックレコーディング講座①



五ヶ瀬×飯野合同探究(オンライン)



日本語ディスカッション①



日本語ディスカッション②



英語ディスカッション①



英語ディスカッション②

## 地域との協働による取組み 事業風景



わらじ作り講習会（1年・6年）



GIAHS シンポジウム（グループ探究）



食べる通信①（地元猟師への取材活動）



食べる通信②（調理レシピの取材活動）



地元中学生との意見交換



地域協働学習実施支援員との意見交換



政策提案コンテスト①（最終審査会）



政策提案コンテスト②（審査表彰式）

## オンライン教育の推進に向けた取組み 事業風景



探究活動における活用（生徒発表）



教科学習における活用（数学科）



オンライン発表会への参加



オンライン研修会への参加



オンライン取材活動（食べる通信）



オンライン生徒発表会（マイプロジェクト）



職員研修①（リモート講義の手法を学ぶ）



職員研修②（ICT活用推進ワークショップ）

## ①令和2年度 研究開発の概要

2020年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	みやざきけんりつごかせちゅうとうきょういっくがっこう						②所在都道府県	宮崎県
2019～2021	①学校名	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校							
③対象 学科名	④対象とする生徒数							⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	全国初の公立中等教育学校として、宮崎県全域より1クラス40名を募集し、1学年から6年生まで、計224名が在籍している。	
全日制 普通科	40	40	39	38	36	34	227		
⑥研究開発 構想名	学校を核とした「共学共創コミュニティ（GIAHS Co-Learning Community）」の形成								
⑦研究開発 の概要	<p>GIAHS 地域ならではの価値を創造し、地域の未来を切り拓く「野性味あふれる地球市民」を育成するため、次の3点を軸とした研究開発に取り組む。</p> <p>(1) 地域との協働による「共学」の実現（地域課題研究の実践）</p> <p>(2) SGH 事業の成果に基づいた「共創」の実現（探究カリキュラムの開発）</p> <p>(3) 本事業終了後を見据えた「自走的な仕組み」の実現（地域人材の育成）</p>								
⑧研究開発 の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>世界農業遺産・認定地域（GIAHS 地域）においてコンソーシアムを構築し、スーパーグローバルハイスクール事業で培った地域課題研究をコンソーシアム構成員と協働しながら実践・普及することによって、学びの真正性と普遍性を兼ね備えた「共学共創コミュニティ（GIAHS Co-Learning Community）」を形成し、Society 5.0 を GIAHS 地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民（Global citizen）」を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>宮崎県は、21世紀を拓くリーディング・プロジェクトの1つとして「フォレストピア宮崎構想」を昭和62年に発表し、その中で本校は「学びの森」の中核として平成6年に全国初の公立中高一貫教育校として創設された。また、社会や環境に適応しながら独自性のある農林業とそれに密接に関わって育まれた人々の暮らしや文化を含む「山間地農林業複合システム」として、同地域は平成27年に国際連合食糧農業機関（FAO）によって世界農業遺産（GIAHS）として認定された。</p> <p>一方で、本校は平成26年に文部科学省のスーパーグローバルハイスクールに指定され、5年間の事業に取り組んできた。中山間地域（ローカル）に顕在化しているグローバルな社会課題に関心を持ち、その解決のモデルを考察・実践することができる「野性味あふれるグローバル・リーダー」の育成を目指して、地域課題研究を軸とした教育カリキュラム（総合的な学習の時間）を展開し、SGH 甲子園2018 最優秀賞をはじめ、公益性の高いコンテストにおいても、高い評価を得ることが出来た。</p> <p>このように、本校が位置する五ヶ瀬町を含む5町村は、20年以上に渡ってその価値や魅力が評価され続けてきた地域であるとともに、その拠点として本校が構築してきた探究的な学びの実績があるといえる。</p> <p>そこで、学校を核とした共学共創コミュニティ（GIAHS Co-Learning Community）を形成し、これまでのSGH 事業で構築した探究的な学びを地域と協働しながら実践・普及することによって、Society 5.0 を GIAHS 地域から分厚く支える野性味あふれる地球市民（Global citizen）を育成できるだろう。</p>							

<p style="text-align: center;">⑧ 研究 開発 の 内容 等</p>	<p style="text-align: center;">⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) <b>地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</b></p> <p><u>(ア) 総合的な探究の時間（グローバルフォレストピア探究）の実施</u> SGH 事業を5年間実施し、生徒の社会課題に対する当事者意識を高めることができた。今後は、グローバルな視野のもとで、地域の課題解決へ向けた学びに深化させる必要があると考え、「ローカルな問いを深め、普遍的な問いを探究する」ための総合的な探究の時間（グローバルフォレストピア探究）を実施する。これまで培った地域との協働による探究的な学習内容を6カ年に適切に位置づけるとともに、各教科・科目と相互に関連させるため、教科等横断的な学習を計画する。</p> <p><u>(イ) 総合的な探究の時間における形成的アセスメントの実施</u> グローバルフォレストピア探究においては、身につけさせたい5つの力（関連づける力、問う力、見る力、試みる力、繋がる力）の獲得を目指し、生徒及び教師が自己評価・客観的評価を行う。評価方法として、ICEモデル(Young and Wilson, 1995)をもとに、独自の評価基準を設定する。このような形成的アセスメントの構築を通して、学校全体の授業改善や教師、生徒の学びに対する意識改革を促すことを目的とする。</p> <p>(2) <b>カリキュラム・マネジメントの推進体制</b></p> <p><u>(ア) フォレストピア検討委員会</u> 各学年コース責任者、研究調査部、前期・後期教頭、地域協働学習実施支援員で構成し、外部有識者からの助言・指導を活かしながら、6カ年を見通したグローバルフォレストピア探究の実施内容の検討やカリキュラム改善を行う。</p> <p><u>(イ) 教科代表者会</u> 各教科の代表者、前期・後期教頭、教務主任、探究主任、進路指導部長で構成し、グローバルフォレストピア探究と教科等横断的な学習の計画や方向性を確認するとともに、探究的な学びに対するアセスメントの役割を担う。</p> <p><u>(ウ) 海外交流検討委員会</u> 研究調査部、前期・後期教頭、事務長、海外交流アドバイザー、教務主任、前期・後期主任、生徒指導部長、寮教育部主任、留学支援担当教職員で構成し、本校生徒の海外フィールドワークや海外留学・進学への支援、海外からの留学生受け入れ（アジア高校生架け橋プロジェクト等）の支援に関する運営・検討を行う。</p> <p>(3) <b>必要となる教育課程の特例等</b> 特になし</p>
<p style="text-align: center;">⑨ その他 特記事項</p>		<p>(1) <b>コンソーシアム構成員との協働による企画・運営</b> SGH 事業で取り組んできた成果をもとに、コンソーシアム構成員（GIAHS 協議会、地域NPO、協働推進連携校）との協働による企画・運営を行う。 [主な活動] GIAHS スタディツアーへの参画、GIAHS シンポジウムの開催</p> <p>(2) <b>先進的な外国語教育の実践</b> 3学年の生徒全員を対象にしたグローバル探究研修（イギリス）や4学年の選抜生徒を対象にした海外フィールドワーク（GIAHS 認定地域）を実施し、地域課題研究と関連づけながら、コミュニケーション能力を重視した外国語教育を実践する。</p> <p>(3) <b>社会人向け教育プログラムの開発と提言</b> 将来的に地域協働学習実施支援員として活躍できる地域人材やその資質を有する教職員を養成するための社会人向け教育プログラム（みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース）の開発に取り組み、本事業終了後の自走的な仕組みづくりを提言する。</p>

**Global (2014～ スーパーグローバルハイスクール事業)**

○研究開発の概要: 中山間地域に位置する本校でグローバル・リーダー育成に向けた教育を展開するために、本校の特徴(6カ年教育カリキュラムの編成、探究活動の実践、全寮制教育など)と、国際社会に散在する課題が山積みされた中山間地域の強みを活かして、国内外の関係機関と連携を図りながら課題研究を軸とした研究開発を行う。

○OSGH事業の成果: 社会実践を伴った課題研究活動の展開、探究的な学びを生み出す6カ年教育カリキュラムの開発、海外フィールドワークの実施 など

学びの普遍性(アカデミック)

**野性味あふれる地球市民(Global citizen)の育成**

(1) 関連づける力 Associating (2) 問う力 Questioning (3) 見る力 Observing (4) 試みる力 Experimenting (5) 繋がる力 Networking

風を読む(資質)

葉を広げる(連携) GIAHS Co-Learning Community の構築



世界農業遺産(GIAHS)  
高千穂郷・椎葉山地域



**共学共創チーム**  
【アカデミック・アドバイザー】  
阿部健一(総合地球環境学研究所)  
梶谷真司(東京大学UCTP)  
【カリキュラム・アドバイザー】  
川原一之(アジア砒素ネットワーク)  
岩本悠(教育魅力化プラットフォーム)

**グローバル・サポーター**  
国連食糧農業機関(FAO)

幹を育てる(探究) 地域との協働による探究活動の実践

土を耕す(支援) 地域協働学習実施支援員の養成

○みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース  
(ウェブ会議システムを活用した社会人向け教育プログラムの提言)

**共に学ぶ【拡がり】**

- 6カ年の総合的な探究の時間 (GIAHS・SDGsをテーマにした地域課題研究)
- GIAHSシンポジウム (協働連携校との合同シンポジウム)
- GIAHSスタディーツアー (国内外の留学生向けツアーの企画・運営)

**共に創る【深まり】**

- Globalな視点×Localな実践 (地域・海外人材との協働による探究活動)
- 海外人材との協働的な学び (留学生受入:アジアの架け橋プロジェクト)
- 海外フィールドワーク (国内外におけるGIAHS地域の魅力発信)

学びの真正性(リアリティー)

**Local (1986～フォレストピア構想, 2015～ 世界農業遺産認定)**

○フォレストピア構想: 県北5町村による「フォレストピア圏域」において、森林が持つ様々な機能と山村固有の伝統的な生活文化を活かし、人間性回復の森林づくりを目指すもの。五ヶ瀬町は「学びの森」に指定され、本校はその拠点校として位置づけられている。

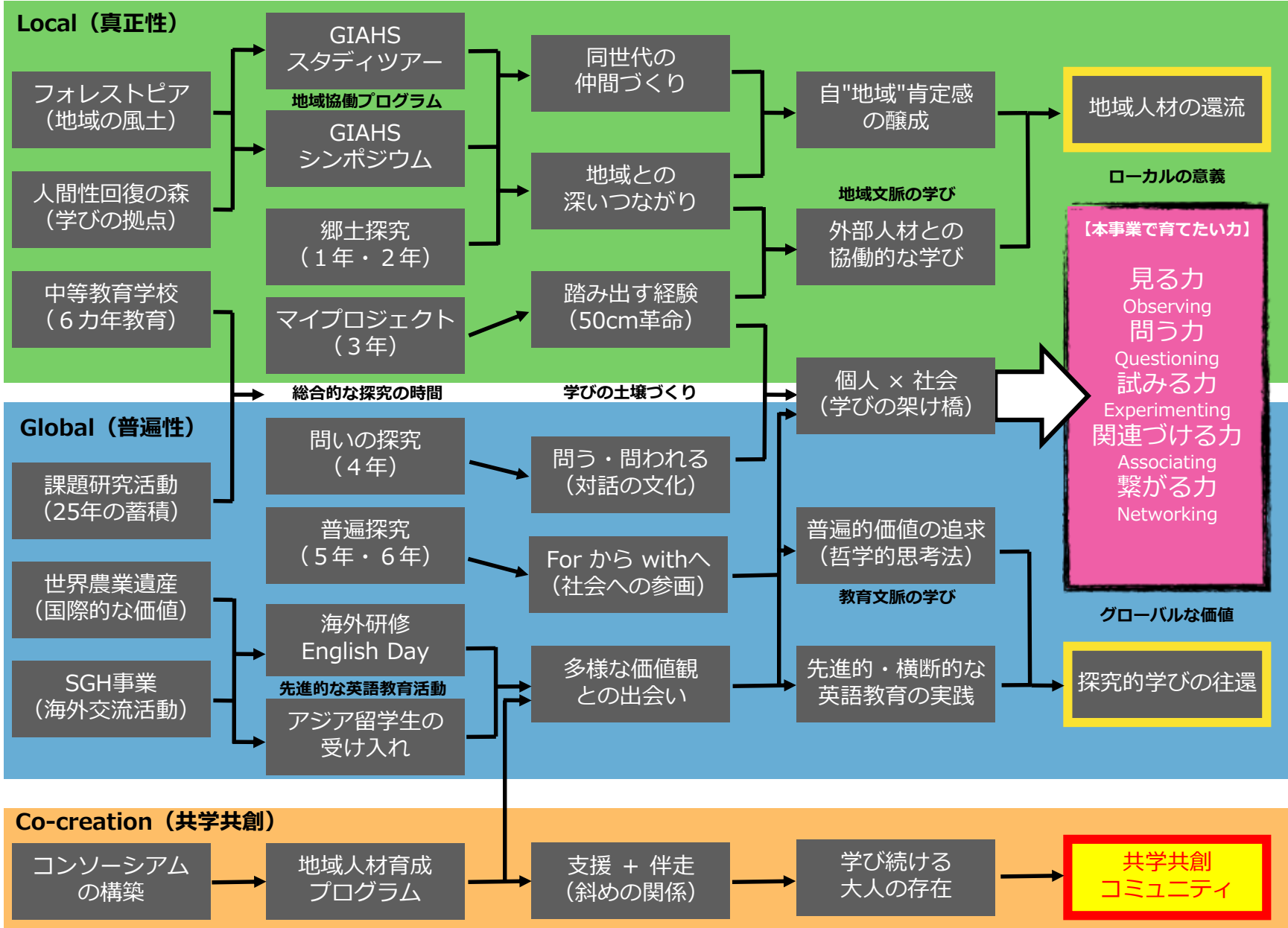
○世界農業遺産 GIAHS: 社会や環境に適応しながら時代を通して継承されてきた独自性のある農林業と、それに密接に関わって育まれた人々の暮らしや文化を含む「山間地農林業複合システム」について、国連食糧農業機関によって認定されたもの。

Society 5.0を地域から分厚く支える人材の育成





創設のこぼれ「天に学び 地に学び 人に学び 天を学び 地を学び 人を学ぶ」



野性味あふれる地球市民の育成 (社会を分厚く支える地域人材)

ふりがな	みやざきけんりつごかせちゅうとうきょういくがっこう	指定期間	2019～ 2021
学校名	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校		

## 2020年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
コンソーシアム構成員と協働しながら地域課題研究に取り組み、地域人材の1人として社会実践を行う生徒数						単位：人
a	本事業対象生徒：		34			40
	本事業対象生徒以外：		8	15	26	25
目標設定の考え方：当事者意識をもって地域課題研究に取り組み、実際に社会で実践しようとする生徒数を増加させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
将来地元及びGIAHS地域に関する研究・調査を視野に入れて国内外の大学等に進学する生徒数						単位：人
b	本事業対象生徒：		9			10
	本事業対象生徒以外：		3	5		0
目標設定の考え方：地域課題研究を本校を卒業後も継続し、地域から分厚く社会を支えようとする生徒を育成する。 ※本事業対象外の生徒は「前期課程1年～3年」を意味するため、進学数が「0」になることを注意されたい						
(その他本構想における取組の達成目標)						
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合						単位：%
c	本事業対象生徒：		56.36%			60%
	本事業対象生徒以外：		26.30%	56%	2%	20%
目標設定の考え方：地域課題研究と関連した外国語教育を通して、4技能をバランス良く身につけた生徒を増加させる。 ※本事業対象外の生徒は「前期課程1年～3年」を意味するため、対象生徒と英語力の習熟段階に差が生じることを注意されたい						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
教育課程内で取り組む地域課題研究又は発展的な実践に参画したコンソーシアム構成員の延べ人数(人数×回数)						単位：人
a	30	40	53			50
目標設定の考え方：自治体や地域NPO、近隣学校の生徒や大学生(留学生を含む)と「共に学ぶ」機会を増加させる。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
コンソーシアム構成員との協働による発表会・研修会等の実施回数						単位：回
b	2	2	9			6
目標設定の考え方：本事業の成果を発信し、先進的な教育カリキュラムを地域と「共に創る」機会を増加させる。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
社会課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数						単位：人
c	15	18	36			20
目標設定の考え方：公益性の高い国内外の大会への積極的な参加を促し、学術的価値をもった研究活動を推進させる。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 教育課程外で実施される活動又は発展的な実践に参画した生徒(連携校を含む)の延べ人数(人数×回数)					単位：人
	40	30	58			50
目標設定の考え方:コンソーシアムで企画・運営される活動に参加し、地域社会への貢献の意義や実感を得る生徒を増加させる。						
d	(その他本構想における取組の具体的指標) 社会人向けプログラム「みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース」の開発に参画した延べ人数(人数×回数)					単位：人
	0	0	19			20
目標設定の考え方:将来、地域との協働による学習を支援するための資質・能力を有した地域人材を増加させる。						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	227	229	224	227	233
本事業対象生徒数			107	108	113
本事業対象外生徒数			117	119	120

## ②令和2年度 研究開発実施報告

## 第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

2-1-1 育てたい資質・能力

2-1-2 教科での取組みとの関連性

2-1-3 コロナ時代の新しい探究様式

第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

第2節 葉を拓げる（コンソーシアム構築に関する事業）

第3節 幹を育てる（探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業）

第4節 土を耕す（教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業）

第5節 森を見る（評価に関する事業）



## 2-1-1 育てたい資質・能力

### (1) 事業のねらい

本事業は、学びの真正性と普遍性を兼ね備えた「共学共創コミュニティ (GIAHS Co-Learning Community)」の形成を通して、Society 5.0 を GIAHS 地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民 (Global citizen)」を育成することを目的とする。その目標達成に向けて、本事業では5つの育てたい資質・能力を設定することによって、総合的な探究の時間だけでなく、全ての教育活動を紐付けたカリキュラム・マネジメントの実現を目指す。

### (2) 事業の概要

本校の設立理念を基づいて、本事業が目指す生徒像「野性味あふれる地球市民」を、以下のように設定した。

#### ① 志 (挑戦する人)

将来に向けての展望や夢を描き、固い信念とあふれる情熱をもって努力し、一步踏み出すことができる人

#### ② 忠 (個性豊かな人)

自分の真の姿を形成し、自分の心の純粋さを求める人

#### ③ 恕 (心を開く人)

いついかなる時においても他人を思う気持ちや万物に対する心の広さをもつ人

#### ④ 妙 (探究する人)

この上なく巧みで言い表しようのないほど優れた究極の理想を追究する人

#### ⑤ 気 (自然に学ぶ人)

万物生成の根源力・勢いを持ち、生涯を通じてフォレストピア精神を醸成する人

また、目指す生徒像に対して必要な資質・能力として次の5つを掲げ、6カ年教育カリキュラムにおいて重点項目を設定した。

#### ① 関連づける力 (Associating)

一見関連がないように見える問い、課題、別の領域からのアイデアをうまく関連づける力

#### ② 問う力 (Questioning)

常識や現状に挑むような「なぜするのか、なぜしないのか、これをしたらどうなるのか」などの

問いかけを常に行う力

#### ③ 見る力 (Observing)

何かをする新しい方法についての洞察を得るために、注意深く・意図的に・一貫して、事象の詳細な部分まで観察する力

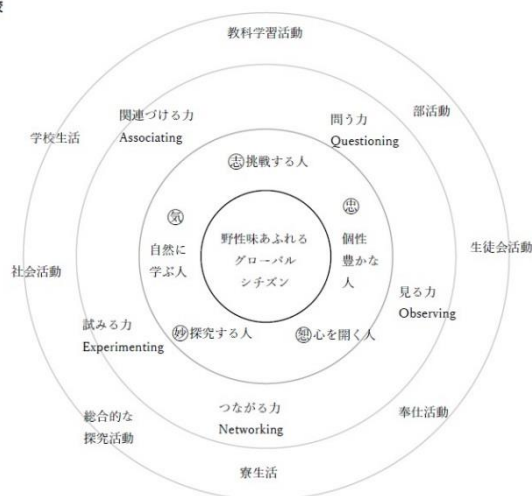
#### ④ 試みる力 (Experimenting)

失敗を恐れず、知的探究・物質的実験・新しい環境への適応など、新しいアイデアを試す力

#### ⑤ 繋がる力 (Networking)

アイデアの多様性を磨くために、属性や試行が異なる人々と繋がる力

五ヶ瀬中等教育学校  
目指す生徒像  
概念図



[6カ年カリキュラムにおける重点項目]

基礎期	1・2年	問う力・見る力
充実期	3・4年	試みる力・関連づける力
発展期	5・6年	繋がる力・関連づける力

### (3) 事業の成果と課題

昨年度取り組んだ「各教科・科目における5つの資質・能力の定義」をもとに、教科代表者会(週1回で定例開催)において教科横断的な視点から議論を深めることができた。特に、今年度は「学びの個性化・指導の最適化」に向けて、全ての教科・科目において積極的にICTを活用した学びが実現したことは大きな成果である。

一方で、コロナ禍による事業計画の変更によって、5つの資質・能力の定着がどのように変化したのかについて、ICEモデルを活用した本校独自の定量的指標を活用しながら議論を重ね、事業の運用に対して柔軟に反映させていく必要があるだろう。

## 2-1-2 教科での取組みとの関連性

### (1) 事業のねらい

本校では、ローカルな問いを深め、普遍的な問いを探究する総合的な探究の時間（グローバルフォレストピア探究、以下GF探究）を展開している。その中で、カリキュラムマネジメントの観点から、GF探究と各教科・科目を相互に関連させる必要がある。そこで、育てたい資質・能力（2-1-1参照）を各教科・科目の中で再設定することによって、教科横断的な学びを意図的に設計することを目指す。

### (2) 事業の概要

事業指定1年目の昨年度は、各教科・科目別に本事業で育てたい資質・能力の再設定を行い（2-1-2資料参照）、「教科横断的な学びの設計」をテーマに職員研修を行った。それを踏まえて今年度は、GF探究と各教科・科目との横断的な学びの設計（クロスカリキュラム等）を行い、授業において実践した。その実践例を以下に記載する。

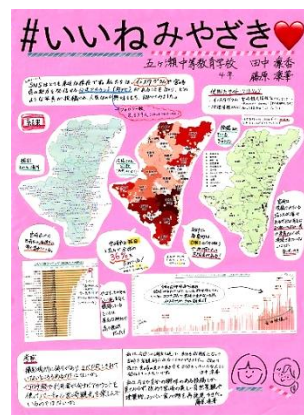
#### ○「GF探究×地理A」（2単位・後期課程4年）

GF探究の郷土探究1・2においてローカルな問いを深め、実践探究3・4のマイプロジェクト・Gokase-ToK等を通じて問いを深化させた経験を生かして、4年生の選択科目・地理A（履修人数6名）では、宮崎県内の地理的事象に関するテーマについて、専門的なGIS（地理情報システム）を活用しながら、地理的な観点も踏まえて探究活動を行った。

GISを用いた主題地図作成の過程は、「地理空間情報（統計情報）の収集」→「情報の集計・整理」→「計算・加工・分析」→「地図化（可視化）表現」→「解釈・考察」という、課題研究活動と類似した一連の作業を必要とするため、4年時にこの取組みを教科の授業内で行っておくことは、5年時の普遍探究5における課題研究において、生徒の学びが自走しはじめるきっかけになり得る、と考えられる。

また、GF探究における育てたい資質・能力の側面から捉えると、「育てたい5つの力」のうち、この「GF探究×地理A」の取組みでは、主に「問う力」「見る力」「関連づける力」を養成できると当初想定していたが、その主題地図をもとに作成したポスターが、宮崎県統計グラフコンクールにおいて県知事賞・県教育長賞を受賞（3-1参照）したことで、ポスターのテーマとして取り上げたSNSの運営者である宮

崎県観光協会との新たな繋がりを形成することができた他、協会の公式インスタグラムの投稿内容について本校生徒が提言を行い、早速それが投稿に反映されるなど、実際に社会に影響を与えた経験にもなり、「繋がる力」「試みる力」の育成につながった。



県知事賞受賞ポスター

また一方で、教科教育の側面から捉えると、来年2022年度より「地理総合」「地理探究」科目が新設されるが、特に必修化される「地理総合」においては、新学習指導要領に「GIS（地理情報システム）の活用」が3本柱の一つとして盛り込まれている他、授業のあらゆる場面において探究的活動を取り入れることとされており、その点においても、新学習指導要領を先取りした実践となった。

### (3) 事業の成果と課題

昨年度、5つの育てたい資質・能力を各教科・科目の視点から再設定し、職員研修等の中でGF探究と教科との横断的な学びの設計について議論したことを踏まえ、今年度は、各教科・科目の普段の授業の様々な場面において、探究的学びの要素を取り入れた授業が展開された。

(2)には、紙面の都合により「GF探究×地理A」の実践例のみを記載したが、例えばその他にも、6年「数学探究」では、育てたい資質・能力のうち「繋がる力」の育成を目指して、ICTを活用して多様な大人とリモートで対話し、数学を学ぶ意味や良さを問い・問われる授業が実施された他、実技科目の4年「保健体育」においても、「関連付ける力」等の育成を目指して、喫煙と健康に関して、グラフや統計から問いを立てて学ぶ授業が実施された。

来年度は、全教科にわたって探究的学びが盛り込まれる高等学校新学習指導要領の実施前年度であり、G型事業指定最終年度であることも踏まえ、今年度の取組みをさらに発展させることはもちろん、GF探究と各教科の横断だけでなく、各教科間相互の横断的学びの中に、探究的要素を取り込んでいくような設計の構築を、学校全体として取り組んでいく必要がある。

各教科における「育てたい5つの力」の観点 ※新学習指導要領に記載されている「目標」に準拠して作成

	問う力	見る力	関連づける力	繋がる力	試みる力
定義	常識や現状に挑むような「なぜなのか、なぜしないのか、これをしたらどうなるか」などの問いかけを常に行う力	何かをする新しい方法についての洞察を得るために、注意深く、意図的に、一貫して、事象の詳細な部分まで観察する力	一見関連がないようにみえる問い、課題、別の領域からのアイデアをうまく関連づける力	アイデアの多様性をみがぐために、属性や思考が異なる人々とつながる力	失敗を恐れず、知的探究・物質的実験・新しい環境への適応など新しいアイデアをためす力
総合的な探究の時間	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を立てることができる	自分で立てた課題に対して、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる	課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解することができる	探究に主体的・協働的に取り組み、互いの良さを生かすことができる	新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとすることができる
国語	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすことができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させることができる。	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	他者との関わりの中で伝え合う力を高め、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を通して他者や社会に関わることができる。
地歴	社会に見られる課題の解決に向けて構想し、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。	多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができる。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとするすることができる。
社会・公民	事実をもとに多角的に考察し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、構想したことを議論する力を養う	課題を社会的な見方・考え方をを用いて課題を追求したり、解決してたりすることができる。	調査や諸資料で得た情報や社会的な事象から得た情報や概念をまとめることができる。	他者と協働的に課題を追求したり、まとめたり、学びを振り返ったり、新たな問いを見出したりできるか。	学習上の課題を意欲的に解決しようとしたり、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察できるか。
数学	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に意味づけ(数学化)したり、数学的に解釈することができる。	数学的に表現・処理したりすることができる。また、一連の活動を通して、数学のよさに気づくことができる。	事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察することができる。	問題を自立的・協働的に解決する過程を遂行することができる。	粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようことができ、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性をもつことができる。
理科	自然の事物・現象に対する概念、法則・原理を理解し、問題を見だし、科学的に探究できる。	科学的な視点で、観察実験・考察・分析できる。	日常生活や社会との関わりの中で、科学の有用性を実感し、生徒自ら知識を獲得し、理解を深めることができる。	見通しを持って、科学的根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断できる。	身につけた科学的な力を用いて、主体的に探究しようすることができる。
保健・体育	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見することができる。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる。	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
芸術	芸術の諸活動から自己を見つめ、自ら問いを立てることができる。	感性を働かせ、創造的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わうことができる。	芸術の幅広い活動から、伝統や文化、生活や社会と自己とを関連づけることができる。	芸術の幅広い活動を通して、主体的・協働的に取り組み、互いの良さを認め合うことができる。	心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。
英語	日常的な話題や社会的話題について、自ら主体的に課題を発見し、自ら問うことができる。	コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、相手の発言や考えを読み取ることができる。	情報や考えなどの概要や要点、話し手の意図などを的確に理解し、課題解決の糸口を見つめることができる。	異なる文化や異なる年齢の集団の中で意見を交換することで視野を広げ、課題解決に向けて協働することができる。	自分の意見や考えをもとに、見たり聞いたりしたことについて理解を深め即興で意見を伝え合うことができる。
技術	生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定することができる。	生活や社会の中から問題を見出すことができる。	生活や社会における事象を技術のかかわりの視点で捉えることができる。	技術についての基礎的な理解ができ、生活や社会と技術の繋がりを考えることができる。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造することができる。
家庭	生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定することができる。	生活や社会の中から問題を見出すことができる。	生活や社会における事象を家庭科にかかわりのある視点で捉えることができる。	家庭科についての基礎的・基本的な知識が身につく、生活的実践力を備えて生活や社会との繋がりを考えることができる。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造することができる。



## 2-1-3 コロナ時代の新しい探究様式

### (1) 事業のねらい

2020年3月に行われた全国一斉休校を受けて、本事業の計画も大きな変更を余儀なくされることとなった。コロナ禍によって、海外フィールドワークだけでなく、地域での各種活動やイベントも対面での実施が難しい状況に陥ったが、一方でオンラインを活用した新しい探究の在り方が見えてきた1年間でもあった。そこで、本事業の当初のねらいを踏襲した「コロナ時代の新しい探究様式」を実践・検証することによって、予測不可能な社会の中でも学びを止めない探究を実現できるだろうと考えた。

### (2) 事業の概要

コロナ時代の新しい探究様式の実現に向けて、2つの視点を重視した実践・検証を行った。

#### ① ローカル（リアル）でしか出来ないこと

五感を使った経験や体験から生まれる「実感のある学び」を重視するため、コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、五ヶ瀬町近隣での活動や地域住民との対話の時間をできる限り確保するように努めた。主な実践例は、以下の通りである。

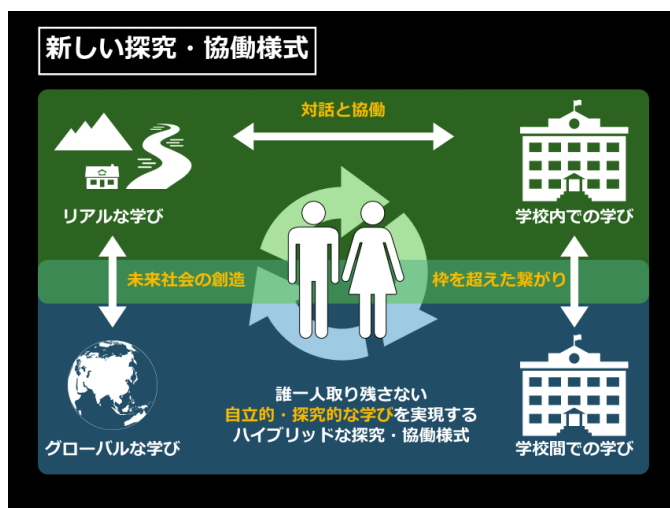
- 4月 わらじ作り講習会
- 6月 命を学ぶ体験活動（鶏の解体）
- 7月 地域住民との対話型ワークショップ
- 11月 近隣学校との協働型シンポジウム

#### ② グローバル（リモート）だから出来ること

年代や所属の異なる多様な人々との出会いから生まれる「越境した学び」を創出するため、オンラインを積極的に活用しながら、多くの探究プログラムを新たな形式で実施することができた。主な実践例は、以下の通りである。

- 10月 オックスフォード大学・卒業生との英語セッション
- 11月 宮崎大学留学生との英語セッション
- 12月 地球総合環境研究所との未来創造型ワークショップ
- 年間 生徒の探究活動における外部機関との定期ミーティング

また、新しい探究様式では「グローバル≠リアル×リモート」と捉え直し、学びを止めない個別最適な環境作りが実現するために、本事業の全ての関係者で目線合わせを行った。以下、運営指導委員会や企画会議、職員研修で使用したスライドの抜粋を掲載する。



### (3) 事業の成果と課題

昨年度取り組んだ「各教科・科目における5つの資質・能力の定義」をもとに、教科代表者会（週1回で定例開催）において教科横断的な視点から議論を深めることができた。特に、今年度は「学びの個性化・指導の最適化」に向けて、全ての教科・科目において積極的にICTを活用した学びが実現したことは大きな成果である。

一方で、コロナ禍による事業計画の変更によって、5つの資質・能力の定着がどのように変化したのかについて、ICEモデルを活用した本校独自の定量的指標を活用しながら議論を重ね、事業の運用に対して柔軟に反映させていく必要があるだろう。

## 第2節 葉を拡げる（コンソーシアム構築に関する事業）

### 2-2-1 コンソーシアム体制

### 2-2-2 地域との協働による取組み

- ①地域協働オンラインセミナー
- ②G I A H Sシンポジウム
- ③五ヶ瀬町政策提案コンテスト
- ④地球総合環境研究所オープンハウス

第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

第2節 葉を拡げる（コンソーシアム構築に関する事業）

第3節 幹を育てる（探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業）

第4節 土を耕す（教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業）

第5節 森を見る（評価に関する事業）



## 2-2-1 コンソーシアム体制

### (1) 事業のねらい

本事業では、5町村で構成されるフォレストピア構想(1986年、宮崎県)及び世界農業遺産(2015年、国連食料農業機関)を基盤としたコンソーシアムを構築し、GIAHS地域で既に取り組みされている諸活動を体系化することを目指す。また、このような体制を整備することによって、コンソーシアム構成員との協働的な地域課題研究の実践(共学)と、外部人材との協働的なカリキュラム開発(共創)を実現し、本校を拠点として「地域と共に学び、地域と共に未来を創る人材(地域人材)」をGIAHS地域から輩出することが期待される。

### (2) 事業の概要

コンソーシアムの体制と活動実績は、以下の通りである。

#### ①コンソーシアムの構成団体

- ・GIAHS協議会 人材育成PJチーム  
5町村より各1名
- ・NPO法人五ヶ瀬自然学校  
理事長 杉田英治
- ・五ヶ瀬自然エネルギー社中  
代表 石井 勇
- ・宮崎大学 GIAHS研究グループ  
准教授 竹下伸一
- ・宮崎県立高千穂高校(地域協働連携校)  
校長 西依 功

#### [活動実績]

7/1	第1回企画運営委員会を実施
中止	第2回企画運営委員会を実施

※県独自の緊急事態宣言のため、第2回は中止



## ②海外交流アドバイザー

- ・NPO法人グローバルアカデミー

代表 田阪真之介

#### [活動実績]

5/1	第1回担当者会議を実施
9/15	本校の海外交流検討委員会に参加
12/25	第2回担当者会議を実施
3/12	本校の課題研究発表会に審査員として参加

## ③地域協働学習実施支援員

- ・高千穂町役場 財政課 総合政策室

主査 田崎 友教

#### [活動実績]

5/1	第1回担当者会議を実施
6/20	本校の総合探究にて講義を実施
7/13	本校の中間発表会にて指導助言
10/20	県外視察団(広島県大崎上島町)との意見交換
10/24	地域協働オンラインセミナーを合同開催
11/18	県外視察団(島根県津和野町)との意見交換 ※リモート会議
12/25	第2回担当者会議を実施
3/12	本校の課題研究発表会に審査員として参加

### (3) 事業の成果と課題

本事業の指定を受けて、今年度も各機関との会議や打ち合わせ、共同開催イベント等が数多く実施された。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オフラインでの会議を中止せざるを得ない状況となったが、その状況下においても、本校では昨年度より実施していたオンライン会議等を活用して担当者間で密に連絡を取ることができた。この2年間で、コンソーシアムの体制を整えることができたという実感はある。

今後の課題としては、「企画運営委員会の在り方」を明確にすることである。この2年間で構築したコンソーシアム体制をより強固にしていくために、来年度採用予定の「高千穂高校地域魅力化コーディネーター」と協働し西臼杵群唯一の県立学校である高千穂高校の魅力化を推し進めていく必要性を感じている。

## 2-2-2 地域との協働による取組み

京都府立北陵高校

京都府立洛北高校

### (1) 事業のねらい

本事業では、学校内外の関係機関と教育コンソーシアムを構築することによって、GIAHS 地域で既に取り組みされている諸活動（地域課題研究の協働・実践、GIAHS シンポジウム・中学生サミットの開催、GIAHS スタディーツアーの企画・運営等）を体系化し、効果的な教育カリキュラムの開発を目指す。

- ・実施概要 地球環境総合学研究所が主催する公開講座（オープンハウス）の中で、テーマ「交錯する 17 歳の研究者」について本校と京都府立高校の生徒による意見交換会をオンラインで実施

### (2) 事業の概要

今年度の事業において、コンソーシアム構成員との協働によって企画・運営した取組みは、以下の通りである。 ※主要な取組み（①②③④）に関する内容詳細は、後述ページを参照

### (3) 事業の成果と課題

本事業で構築したコンソーシアムを中心に、地域との協働による活動を数多く実施することができた。今年度の成果としては、「ICT 活用による連携機関の広がり」がある。コロナ渦だからできないではなく、コロナ渦だからこそできることを、ICT を活用して GIAHS 地域のみならず、他地域と協働をしてきた。今後の課題としては、今回新たに得ることができた県の枠組みを超えたネットワークを継続、自走させていくことが挙げられる。

#### ① 地域協働オンラインセミナー

- ・実施期日 令和2年10月24日
- ・連携機関 GIAHS 協議会
- ・実施概要 GIAHS 協議会を中心に、本地域で取り組んでいる各種活動をオンラインセミナー形式で実施

また、もう一つ成果として「それぞれの強みを生かした協働運営」である。どの取組みも、どこか一つの機関が全てを負担するのではなく、それぞれの得意分野を活かした協働的な取組みとなっている。例えば、GIAHS 協議会の持つ人脈や広報力、五ヶ瀬町役場や五ヶ瀬自然学校の持つ機動力や実践力、地球総合環境学研究所の持つコンテンツ、本校の持つ探究的な学びのノウハウ、というそれぞれの長が重なり合うことで、どのプログラムにおいても生徒の学びを深化させる取組みとなった。今後の課題としては、「有機的なカリキュラム創り」が挙げられる。本年度実施したそれぞれのプログラムを関連付け、体系化することで、より効果的な教育カリキュラムへと発展させたい。

#### ② GIAHS シンポジウム

- ・実施期日 令和2年11月13日
- ・連携機関 高千穂高校  
五ヶ瀬中学校
- ・実施概要 GIAHS 地域の中高生を対象に、「GIAHS のゆたかさ」をテーマにした探究ワークショップを実施

全体的な課題としては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本年度中止せざるを得なかった取組みの実施である。本年度は、「GIAHS 中学生サミット」や「GIAHS スタディーツアー」をやむなく中止をした。しかし、本校の生徒だけでなく GIAHS 地域の生徒や参加者にとっても、効果的な取組みであることは過去の実績が示している。企画・運営に携わる関係機関との連絡体制やリモート体制の整備を進めることで、より効果的な教育カリキュラムの開発を行っていききたい。

#### ③ 関係人口創出拡大 政策提案コンテスト

- ・実施期日 令和2年11月13日
- ・連携機関 五ヶ瀬町役場  
五ヶ瀬自然学校  
南山大学
- ・実施概要 五ヶ瀬町が昨年度採択された総務省「関係人口創出拡大事業」の一環として、本校生徒及び卒業生、南山大学の学生による政策提案コンテストを実施

#### ④地球総合環境学研究所オープンハウス

- ・実施期日 令和2年11月22日
- ・連携機関 地球環境総合学研究所

## 2-2-2 地域との協働による取組み

### ① 地域協働オンラインセミナー

#### (1) 事業のねらい

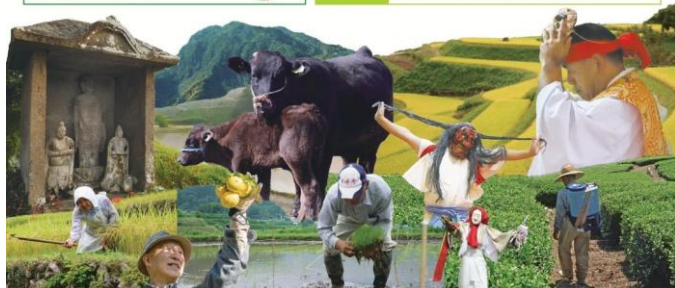
これまで GIAHS 協議会と連携しながら、数多くの探究型プログラムを展開してきた。その結果、近年は県内外からの視察・問合せが増加してきたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、今年度は視察の受入れが困難になった。そこで、GIAHS 協議会を中心に本地域で取り組んでいる各種活動をオンライン・セミナー形式で広く発信することを目的として、GIAHS 協議会の企画・運営に協力したものである。

(本校は第1回セミナーを担当し、オープンスクールにて行われた「総合的な探究の時間(後期課程5年)」の授業をオンライン公開した)

#### (2) 事業の概要

[内容]

期 日	令和2年10月24日(日)13:00-16:00
形 態	ZOOM ウェビナー
参加者	<b>【運営】</b> ・本校5年生 35名 ・協議会事務局 3名 ・県教育委員会 1名
	<b>【オンライン視聴】</b> ・県内教育関係者 14名 ・県外教育関係者 12名
内 容	(1) 事務局あいさつ (2) 説明「本校の取組紹介」 (3) 公開「総合的な探究の時間」 (4) 参加者との意見交換

広報用チラシ (GIAHS 協議会 作成)

#### (3) 事業の成果と課題

本セミナーは年度当初は事業計画として組み込まれていなかったが、4月以降の休校延長措置が決定した際に地域協働学習実施支援員・海外交流アドバイザーと臨時ミーティングを行い、コロナ禍の中にあっても「学びを止めない」ための取組として企画・準備に取り組んだものである。その結果、10月から2月まで計5回のセミナーを実施(本校は第1回セミナーを担当した)し、県内外から延べ300人近くの教育関係者に参加してもらうことが出来た。オンラインの強みを活かして、本地域で取り組む様々な教育活動を全国各地に発信できたことは、大変大きな成果だったと考える。また、GIAHS 協議会を中心にして、本校をはじめ、近隣学校や連携機関を巻き込んだ「協働セミナー」として実施できた点も大変有意義だった。コンソーシアム構成員がそれぞれの立場を活かし合いながら、1つのプログラムを企画・運営する取組みのモデルになることを心から期待している。



オンライン公開(総合的な探究の時間)の様子

## 2-2-2 地域との協働による取組み

### ② GIAHSシンポジウム

#### (1) 事業のねらい

SGH 事業の一環として過去5年間実施してきた「グローバルシンポジウム IN 五ヶ瀬」の理念を継承しながら、昨年度より GIAHS 地域の5町村の中学校や高千穂高校の生徒たちとの協働による「GIAHS シンポジウム」を開催してきた。本シンポジウムでは、GIAHS 地域の生徒が一堂に会し、生徒同士や生徒と地域住民等との意見交換、探究ワーク等を通して、GIAHS 地域の魅力を共に学ぶ機会を設けることで、GIAHS 地域への関心を深め、地域貢献の意義や実感を芽生えさせることを目的とする。

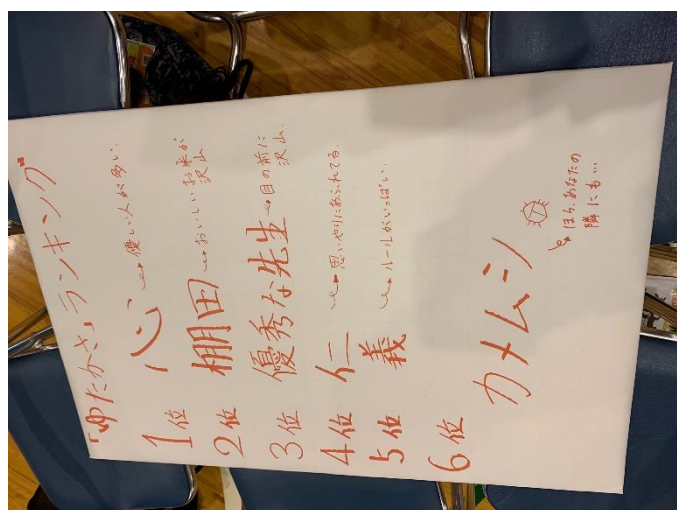
#### (2) 事業の概要

[内容]

期 日	令和2年11月13日(金)
会 場	五ヶ瀬中等教育学校体育館
参加者	・本校3年生 39名 ・本校4年生 38名 ・高千穂高校1年生 56名 ・五ヶ瀬中学校2年生 28名 ・五ヶ瀬中学校3年生 23名
	・本校職員 15名 ・五ヶ瀬中学校職員 4名 ・運営指導委員 6名 ・参観者(現地) 16名 ・視聴者(on-line) 4名
日 程	(1) 学校長挨拶 (2) 日程説明 (3) ミニ講義 「宮崎県のゆたかさ指標について」 講師：山下亮介氏 (宮崎県総合政策部総合政策課) (4) チームビルディング (5) 探究ワークショップ 「GIAHSのゆたかさを考えよう」 (6) 全体共有 (7) 講評(五ヶ瀬中学校校長) (8) 閉会行事



GIAHS 地域の中高生での意見交換



チームで作成した「GIAHS 地域のゆたかさ」

#### (3) 事業の成果と課題

今年度の成果としては、「多様な視点の獲得」とである。昨年度まで実施していたシンポジウムでは、GIAHS 地域の課題解決や将来のビジョンの共有をしてきた。しかし今年度は、「宮崎県のゆたかさ」を踏まえた「GIAHS 地域のゆたかさ」の価値を共有するワークショップを実施した。本校の生徒のような GIAHS 地域の「ソト」と、高千穂高校や五ヶ瀬中学校の生徒のような「ウチ」、そして宮崎県という「枠」という視点から「GIAHS 地域のゆたかさ」を考えることで、生徒個人個人の持つ価値観をぶつけ合うことで、新たな価値を創造していた。

今後の課題としては「協働のアウトプット」である。互いのチーム同士で発表する形式をとったが、生まれた価値が似通っていたため、価値観を混交することはできたが、深化させることはできなかった。来年度は参観者に対してのアウトプットすることで、自走するチーム創りを目標としたい。

## 2-2-2 地域との協働による取組み

### ③ 五ヶ瀬町政策提案コンテスト

#### (1) 事業のねらい

五ヶ瀬町役場が総務省より研究指定を受けている「関係人口拡大創出事業」の一環として、本校生徒ならびに卒業生を対象として、五ヶ瀬町の関係人口を拡大・創出するための政策を募り、受賞作品は実践まで行うことによって、本事業で育てたい資質・能力に掲げる「試みる力・繋がる力」を発揮し、実社会に参画する機会とする。

#### (2) 事業の概要

「五ヶ瀬町政策提案コンテスト」の概要は次の通りである。なお、本コンテストでは、9月末までに応募された10作品の中から、書類審査を経て選考された5作品による最終審査（プレゼンテーション）を実施し、後期課程4年・5年全員が傍聴した。

[内容]

期 日	令和2年11月13日(日)10:00-12:20
形 態	五ヶ瀬中等教育学校 体育館 ※ライブ配信 (ZOOM ミーティング)
参加者	【現地参加】
	・本校4年生 38名 ・本校5年生 35名 ・五ヶ瀬町役場 4名 ・事務局(卒業生を含む) 6名
内 容	【オンライン視聴】
	・県外大学生 20名
内 容	(1) 主催者あいさつ(五ヶ瀬町長) (2) 最終プレゼンテーション ※書類審査を通過した5作品 (3) パネルディスカッション (4) 審査表彰ならびに講評

[受賞作品一覧]

審査結果	発表タイトル
金賞(本校4年)	五ヶ瀬×台湾
銀賞(本校5年)	GO!! 五ヶ瀬でスキーデビュー
銅賞(本校4年)	GCFで五ヶ瀬の魅力を発信!
銅賞(県外大学)	スキー場×00
銅賞(県外大学)	五ヶ瀬×人生ゲーム



政策提案コンテスト・表彰式の様子

#### (3) 事業の成果と課題

今回のコンテストには、本校生徒ならびに卒業生を含めて総勢20名が参加し、五ヶ瀬町役場をはじめ、関係機関の支援のもとで、より実践的な地域課題研究活動を展開することができた。昨年度に引き続き、本校生徒による提案(3作品)が採択され、五ヶ瀬町役場や地域NPOを協働しながら、単なるアイデア創出に終わらない「社会参画型」の研究活動が実践できており、その成果は本校の教育活動にとどまらず、五ヶ瀬町における地方創生の取組みとしても総務省から大変高い評価を得ることが出来た。



大学生による企画・運営の様子(オンライン事前学習)

また、政策提案コンテストに至るまでの企画・運営について、本校卒業生が中心となって大学生が主体的に活動している点も大きな成果といえる。さらに、今年度は南山大学・狭間ゼミの御協力のもと、県外大学生とも協働しながら本事業を進めることによって、高大接続による学びの場づくりを行うことが出来た。次年度は「越境型コンソーシアム」のモデルとして、本事業を発展させていきたい。

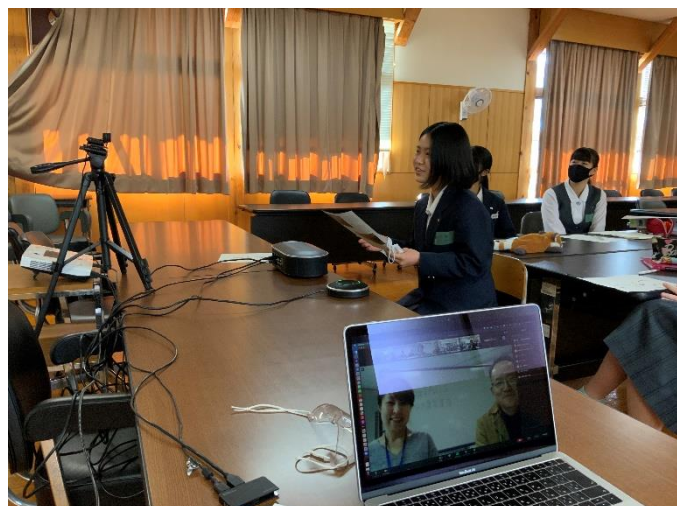
## 2-2-2 地域との協働による取組み

### ④ 地球総合環境学研究所

#### オープンハウス

#### (1) 事業のねらい

海外フィールドワークをはじめ、これまで地球総合環境学研究所から多大なる支援をいただいていた。そのような背景もあり、今年度は本研究所が主催する公開講座（オープンハウス）の中で、テーマ「交錯する 17 歳の研究者」について本校と京都府立高校の生徒による意見交換会をオンラインで実施することによって、コロナ禍においても「学びを止めない」高校生の姿を全国に発信する機会とする。



京都府立高校との意見交換の様子

#### (2) 事業の概要

[内容]

期 日	令和 2 年 11 月 22 日 (土) 9:00-11:00
形 態	YouTube ライブ配信
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校 4 年生 9 名</li> <li>・本校 5 年生 7 名</li> <li>・京都府立北陵高校 12 名</li> <li>・京都府立洛北高校 10 名</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校職員 1 名</li> <li>・京都府立高校職員 3 名</li> <li>・地球環境総合学研究所職員 3 名</li> </ul>
日 程	(1) 地球総合環境研究所あいさつ (2) セッション① 本校「フィリピン研修」 北陵「地球研との連携学習」 (3) セッション② 本校「GIAHS たべる通信」 洛北「SSH 課題研究活動」 (4) まとめ
	<p>※各セッションでは、事前に各校の生徒が作成した活動動画（10分）をそれぞれ視聴し、その内容に関する質疑や意見交換を実施した。</p> <p>【当日のオンデマンド動画】  <a href="https://youtu.be/CXvsI_FtUMY">https://youtu.be/CXvsI_FtUMY</a></p>



広報用チラシ（地球総合環境学研究所 作成）

#### (3) 事業の成果と課題

今回は、地球総合環境学研究所とこれまで各種プログラムで連携を図ってきた本校ならびに京都府立高校（北陵，洛北）を対象に、コロナ禍の中における各校の探究の取組事例を共有するとともに、意見交換を行うことによって、県の枠組みを越えたネットワークを構築することができた。また、オープンハウスの終了後には担当職員間でオンライン座談会を実施し、コロナ禍で生まれた新たな学びの可能性について、各校の知見を共有することができた。3月末にはこれらの取組をまとめた書籍が出版される予定となっており、本事業の成果を社会に発信する機会になると期待している。

また、今回の取組をきっかけとして、生徒間での交流活動を希望する声が多々あるため、今後はオンラインを積極的に活用しながら、自走的なネットワークへと発展させていきたい。